

「メンタリング」で、実践力向上、業務改善！

今回は、佐賀県内で特徴的な校内研修の取組を行っている山内東小学校の白濱校長先生と北鹿島小学校の池田校長先生にインタビューをしてきましたので、その内容を御報告します。

【プチ学習会の様子】

山内東小学校の取組の内容

【「メンタリング」の手法を用いて、実践力を高めていく研究】

メンター（指導者）とメンティ（被指導者）がペアになり、お互いの強みを生かして、指導の質を高め、職員相互の関係性や絆を深めていく実践



【白濱校長先生】

質の高い指導の確立と
同僚性の高まりへ

○ 1対1などで行うメンタリング（年3回実施）

メンター	メンティ	内容
A先生	B先生	少人数指導
C先生	D先生	特別支援教育
E先生	F先生	高学年音楽
G先生	H先生	音楽の授業展開
I先生	J先生	低学年の音楽
K先生	L先生	ICT活用

- ・複数で行うこともある。
- ・若手教員もメンターになることもある。

○ 「プチ学習会」を年間10回以上実施

月	内容	担当
4月	学級経営のこと	H先生
6月	道徳の授業参観の内容	G・K先生
7月	通知表の所見の書き方	B先生
8月	夏休み明けの体育	D・J先生
9月	図工の風景画指導	C先生
12月	お楽しみ会のやり方	E先生
1月	要録の書き方	A・I先生
3月	学級経営の振り返り	F・L先生

- ・全職員一人一回は担当となる。
- ・時期に応じて、ニーズが高いものを行う。
- ・不定期開催で、参加は自由とする。

○ ペア学年などで同僚の授業参観

- ・45分ではなく、10分程度の参観でもよい。
- ・ペアの先生に見せたい授業、アドバイスをもらいたい授業を行う。

白濱校長先生へインタビュー

Q1 どうして、このような取組を行おうと思われたのですか。

A1 前年度から継続して取り組んでいるのですが、学校を取り巻く環境の変化（大量退職・大量採用、教育改革への対応）を踏まえ、学校での人材育成が必要だと考えたからです。

Q2 どのような成果がありましたか。

A2 従来週休日等で行われていた「サークル」「勉強会」を校内で時間内に行うイメージの取組です。**ワークライフバランスの観点**からも効果があると思います。何より、**職員間のコミュニケーションが促進され、同僚性が高まっている**と思います。

Q3 メンターとメンティはどのようにして決めているのですか。

A3 次のような手順で行っています。

- ① 職員一人一人が、得意な教科や好きな教科、苦手な教科や知りたい教科を記入し、管理職と研究主任で一覧としてまとめる。
- ② メンタリングの希望調査を取り、管理職と研究主任で、メンターとメンティの組合せを行う。

山内東小学校の取組については、直接学校までお問合せください。

今回のインタビュー内容はいかがでしたか。「もっと山内東小学校の取組を知りたい！」と思われた場合は、白濱校長先生に直接お尋ねください。

TEL (0954-45-3565) mail アドレス (shirahama-masaru@education.saga.jp)

北鹿島小学校の取組の内容

【「メンタリング」の手法を通して、授業改善や業務改善を行う実践】

メンティ（被指導者）が、自らの課題に応じて、メンター（指導者）を探し、主体的に学ぶことを通して、課題解決を図っていく実践

教師の学びを「受動型」から「自立型」へ



【池田校長先生】

○「1対1」や「1対多」で行う「メンタリング」

（10分間～平日の放課後など短時間でも）マッチング方法は、以下の2つ。

- ① メンティが、メンターを自由に指名し、メンティ自身の課題について教わる。
- ② メンターが、公務支援システム上の掲示板で、研修内容と研修日時を告知する。自由参加。

※メンティは、校内・校外から学びたい先生（メンター）を選ぶことができることとしている。

※校内でのメンター選択は、「マイシート」を活用する。

○授業公開（一人、年間3回程度）

- ・メンターは、メンティの課題に応じて授業を参観し、「みるみるシート」に「課題解決のヒント」を記入して、メンティに渡す。

【職員アンケート結果（一部）より】 （取組半年後の感想）

- ・学習指導案作成に時間を取られないため、日々の学級経営に向き合ったり、様々な教科の研究に時間を使ったりすることができてよい。
- ・自信をもって「これが得意です」というものがないので、まずは、自分の強みというものを自分自身が見付けたり、認めたりしなければと思った。
- ・校内研にメンタリングを取り入れてもらったおかげで、相談したいときに相談しやすい雰囲気生まれてきていると思う。

池田校長先生へインタビュー

Q1 どうして、このような取組を行おうと思ったのですか。

A1 学校を取り巻く環境の変化や学校の課題（経験年数や学級経営力の差、時間外勤務数）を踏まえ、人材育成が喫緊の課題と考えたからです。また、従来の校内研修では、教員の学びが「受け身」になってしまう一面が見られたからです。

Q2 どのような成果がありましたか。

A2 先生方が、**組織の中で自分の「良さ」や「強み」を発揮し始めようとしている**ところと**積極的に学ぼうとする姿勢**が見られているところです。ほかにも、放課後の時間が生み出されたことでしょうか。

Q3 各先生の取組を全体で共有することは行わないとのことですが、どうしてですか。

A3 メンティは、自分が学びたいと思うメンターを校内・校外問わず、オファーすることができるようにしています。マッチングできたら、それはその人の「学びの世界」です。可能な限り、メンティが望む環境下で（たとえば、外部講師対一人でも）学んでほしいと思っています。

北鹿島小学校の取組については、直接学校までお問合せください。

今回のインタビュー内容はいかがでしたか。「もっと北鹿島小学校の取組を知りたい!」と思われる場合は、池田校長先生に直接お尋ねください。

TEL (0954-62-4075)

mail アドレス (kitakashima_principal@city-saga-kashima.school)

次回の「実践紹介シリーズ」は、「家庭学習の充実」の取組をお届けします。どうぞ楽しみに!

北鹿島小学校の取組で使われている資料

① 「マイシート（一部抜粋）」
先生方一人一人が、自身の「強み」や「弱み」を把握するためのシート。
メンターとメンティをつなげる際の参考にするため、一覧表を現在作成中。

マイシート 名前()

◇先生方の苦手なこと、「これはできるかも」というものを教えてください。
「先達になる」でつけるのではなく、「できる」をつけてみてください。
先生方の力を過小評価せず、思い切って「できる」をつけてください☆
できる→○ 苦手→△ を□の中に書いてください。

【学習経営について】

- 児童理解
 - 子どもの見取り方 □子どもの褒め方、褒める場面
 - 子どもが楽しめるレク □ちよこっどスキル
 - 配慮が必要な子どもの関わり方
- 生徒指導
 - トラブルの未然防止 □児童同士のトラブルの対応
 - 生活のルールの徹底 □ルールの定着の仕方
- 保護者対応
 - 電話対応の仕方 □面談の仕方
 - 連絡帳などの書き方
- 係・当番など
 - 係の作り方、仕事のさせ方 □当番活動(一人一役など)のあり方、仕事のさせ方
 - 掲示物
- 掲示板の工夫
 - UDの視点での掲示物 □子どもが見てうれしい掲示物

【学習指導全般】

- 授業技術
 - 授業での教員の話し方 □UDの視点から「見やすい板書」
- 学習規律
 - 席の聞き方、話し方 □声の大きさの指導 □引き出しの中の整頓
 - 学習のルール □机上の道具
 - 持ち物指導 □宿題の出題法(運び方) □自学の勧め

【授業について】

- 教材研究
 - 単元構成 □子どもの実態に合った単元構成、ねらい
 - 学習指導要領に沿った授業の作り方(見方・考え方を働かせる授業づくり)
 - 課題解決型の授業展開 □「学びたい」を引き出す教員の工夫
 - UDの視点をもった授業展開 □読解力をあげる授業づくり
 - ワークシート、学習カードの作り方
- 授業導入
 - 興味の引かせ方 □めあてまでの流れの工夫
- 授業展開
 - 見通しの持たせ方 □自分の考えの書かせ方
 - 書く力を上げるには □山場のある授業展開
 - 対話的で深い学びを生み出す工夫 □評価の仕方・あり方
 - 最後まで意欲を継続させる授業展開 □苦手な子への対応、支援
 - 配慮が必要な子への支援

○授業終末
□ふりかえりの視点 □学習の効果をおげる終末の工夫

② 「みるみるシート（一部抜粋）」
年間3回程度のメンターとメンティの相互授業参観で使用するシート。
メンターは、授業を参観し、メンティの課題に応じた解決のヒントを記入する。

みるみるシートA

授業者 参観者	(メンティ) (メンター)
公開日・場所・学年・教科	R5.5.15 6年教室 6年 算数
単元名・主題・題材名	文字と式

メンティの課題

○児童に「やってみよう!」や「わかるかも...できそう!」という気になるような導入のあり方(強引にめあてまで進めている感じがするため、何とかして工夫したい。

課題解決のヒント(授業の中で)

できているところを認め、次に挑戦してほしいを少し記入して下さい。

○具体物、反具体物(おはじき)の提示により、場面の様子が児童にスムーズに理解でき、生活場面とも結びつきも感じられ、やってみようという意欲につながった。
○課題提示の際に、ゆさぶりをかけたことにより、式の数値や文字に着目するきっかけとなった。
○プレゼンテーションに場面の様子をまとめてあったため、問題の把握がやすかった。とてもよかった。
○授業開始から短時間でめあての提示に進んだ。課題提示の際、 $x \times 16$ ではなく、 $16 \times x$ を提示したことにより、「あれ??」と疑問が生まれた。そこで数値のつぶやきをつなぎながら、課題提示に進んだ。1分間で隣の友達との会話を入れてもよかったかもしれない。かけ算の意味理解が十分でないという実態があったため、あえて、 $16 \times x$ を入れた意味がはっきりしたと思う。
○めあては、児童とやりとりをしながら設定してよいと思うので、今後検討してほしい。

メンターは、児童の反応、様子を記録します。

手書きで記入しながら、書き込んでOKです。課題と併し合わせ、参照するポイントをばって、参観してください。

これは、メンターが撮った写真です。

明日からの実践に向けて(メンティから)

事前の準備の際に、自身の課題を解決するために考えていることをじっくりと聴いて頂けたので、思考の整理ができた。様々な導入を考えたことで、やってみたいと思われ、子どもの実態に即した流れで授業をすることができた。授業のねらいと実態をしっかりと照らして授業ができるようになりたい。めあても子どもと一緒に考えるよう心がけていきたい。

北鹿島小学校の取組の様子



メンティ(右)からのリクエスト(授業参観)を受けるメンター(左)



授業を行っているメンティ



校内・校外の希望者を募って模擬授業型研修
メンター(池田校長)



メンター(大学教授)による対話型研修
(1回目: 1対1、2回目以降: 希望者)